

富山農林振興センター 普及情報

HP アドレス <http://www.pref.toyama.jp/sangyou/nourinsuisan/nourinshinkou/index.html>



二次元コード

第 91 号 (令和 7 年 7 月)

富山農林振興センター諏訪川原庁舎
〒930-0088 富山市諏訪川原 1-3-22

TEL :
企画振興課 444-4475 (総合庁舎内)
担い手支援課 444-4521 , 444-4523
農業普及課 444-8117 , 444-8125
444-0410 , 444-0413
FAX :
444-4518 (企)、444-4516 (担・農)



畦畔雑草に生息するカメムシ調査
(P 2 ~ 3 に本文)



りんごの摘果作業に励む藤田学さん
(P 5 に本文)



青ねぎの株元を残すことで2回収穫
(P 4 に本文)



大区画ほ場での加工用かんしょの機械収穫
(P 6 に本文)

目 次

- 米の収量・品質を左右する夏場の栽培管理 2 ~ 3 ページ
- 大豆に被害を及ぼすカメムシ類が増加中 3 ページ
- J A 富山市青ねぎ生産拡大中! 4 ~ 5 ページ
- おいしい山田りんごと地域の活性化~新規就農者紹介⑤~ 5 ページ
- 大区画ほ場での高収益作物栽培実証について 6 ページ
- 野生鳥獣から地域を守るために侵入防止柵の一斉見回り点検運動 7 ページ
- 職場における熱中症対策が義務化~農業の現場でも!~ 8 ページ
- 「富山あぐりマッチボックス」で人手不足を解消しませんか? 8 ページ

米の収量・品質を左右する夏場の栽培管理

近年、夏場の気温が異常に高い状態が続き、猛暑日や熱帯夜の増加により農作物への影響が深刻化しています。特に水稻では、高温による登熟不良が「白未熟粒」の発生を招くなど、収量・品質が低下してきています。

このような収量・品質低下を防ぐためには、夏場の栽培管理を徹底し、水管理や施肥管理を適切に行うことが重要です。

1 幼穂形成期～出穂期の管理

(1) 飽水管理で稲体活力を維持

幼穂形成期～出穂期の間は、足跡の水を切らずに湿潤状態を保つ「飽水管理」を徹底しましょう。

この時期は肥料を吸収させ、葉色を濃くしながら稲体の活力を高め、登熟への準備を進める重要な時期です。そのため、常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ち、稲が肥料を吸収できる環境を整えることが重要になります。



この状態になったら速やかに入水

(2) 追加穂肥で目標の葉色に

幼穂形成期～出穂期までの気温が高い場合は、稲の葉色が濃くなりやすく、目標とする葉色に達しない場合があります。その結果、穂数・粒数の減少や白未熟粒の増加につながり、米の収量・品質が低下します。収量・品質を確保するために、追加穂肥を施用しましょう。

区 分	出穂 7 日前	出穂 3 日前までに 追加穂肥を施用	目標：穂揃期
壤土、埴壤土 洪積土	葉色 4.0 以下 (SPAD 値 32)		葉色 4.2～4.5 (SPAD 値 32～35)
砂壤土	葉色 4.2 以下 (SPAD 値 34)		葉色 4.5 (SPAD 値 35)

ドローンを活用した施肥や流し込み肥料等、省力的な施肥方法もありますので、積極的に追加穂肥を行い、収量・品質の低下を防ぎましょう。

2 出穂期～成熟期の管理

(1) 出穂後 20 日間は水不足に注意

出穂後 20 日間は、田面が露出しないよう水深 3 cm 程度を保つ「湛水管理」を行うことが重要です。

出穂期頃は高温が続く時期で、水不足が登熟不良を招き、白未熟粒の発生を助長します。この時期にしっかりと水をためておくことで、品質低下を効果的に防ぐことができます。



田面が露出しないように

(2) 適切な水分管理で白未熟粒・胴割粒を防止

湛水管理の期間が終わったら「間断かん水」に切り替え、収穫の5～7日前まで続けましょう。

収穫前まで適切な土壌水分を保ち稲体の活力が維持することで、白未熟粒や胴割粒の発生を抑えましょう。

高温による収量・品質低下を防ぐには、夏場の適切な栽培管理が欠かせません。水管理と施肥管理を的確に実施するなど、気温の変化に対応した栽培技術を行うことで、米の収量・品質向上を目指しましょう。

(農業普及課)

大豆に被害を及ぼすカメムシ類が増加中

近年、大豆ほ場でカメムシ類の発生が増加しており、それに伴う陥没粒などの被害が確認されています。今後、生息域が拡大するとともに、被害が大きくなる恐れがあることから、雑草地の草刈りや基本防除等を確実に実施し、被害の拡大防止に努めましょう。

1 大豆を加害するカメムシ類

県内では、イチモンジカメムシやホソヘリカメムシ等が大豆に被害を与えています。これらは、雑木林や河岸の雑草地で成虫で越冬した後、マメ科雑草などで増殖します。その後、大豆の莢伸長期頃に、ほ場へ侵入し、収穫期まで莢や子実を加害します。

体長：9～11mm（成虫）



イチモンジカメムシ

体長：14～17mm（成虫）



ホソヘリカメムシ

体長：12～16mm（成虫）



アオクサカメムシ

2 カメムシ類による被害

＜主な被害＞

- | | | |
|---------------|---|-------------------------------|
| ①花や莢の落下 | } | 青立ち株の発生を助長し、収量及び品質の低下をもたらします。 |
| ②不稔莢の発生 | | |
| ③吸汁による陥没、変形 等 | | |



カメムシ被害粒

3 防除時期

防除適期は莢伸長期（8月中旬）と子実肥大型（8月下旬）であり、2回の基本防除を徹底することが重要です。なお、山際が多発地帯や発生が多い場合は、追加防除（9月上旬）が必要となる場合があります。

(農業普及課)

J A 富山市青ねぎ生産拡大中！

1 乗用型半自動移植機で移植精度向上

J A 富山市では、加工業務用青ねぎを重点推進品目として位置づけ、生産拡大を進めています。

令和6年4月に導入された乗用型半自動移植機（写真1）は、従来の移植機に比べ、①欠株率が低く補植にかかる労力が軽減できる。加えて、②一定した深さでの移植が可能のため、生育ムラが少なく一斉収穫しやすい。といったメリットが挙げられます。

現在、うね立て・移植作業はJ A担当者が生産者立会いのもと行っており、関係機関一体となり生産振興に取り組んでいます。



写真1 乗用型半自動移植機による作業

2 「加工業務用青ねぎ」としての生産・出荷拡大

（1）収穫体系の変更による単収向上

作業負担軽減と出荷量増を両立するため、令和6年から株元を残す「刈取り収穫」に変更したことから、収量は10a当たり約1.1tから約2.5tとなり、出荷量・販売金額とも増加しました（図）。

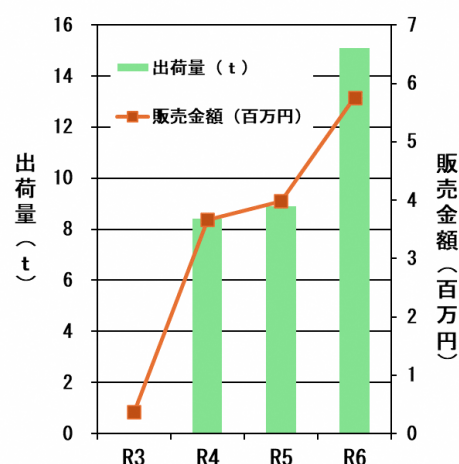


図 青ねぎ生産の推移

（2）県外出荷による販路確保

近年、問題となっている「2024年輸送問題」や「夏季の高温」による影響から、既存産地から関東地方への輸送が課題となっており、実需者は新たな産地の確保を求めています。この状況を踏まえ、令和5年度より関東の加工業者向けの出荷を開始しました。

J A 富山市では、県外出荷に向けて、目揃え会の開催による荷姿の統一（写真2）や、一元集荷体制を整備し、効率的な出荷体制を構築しました。その結果、令和6年度の出荷量は10tに達し、前年比851%と大幅に増加しました。今後もさらに県外出荷量の拡大が見込まれています。



写真2 統一の荷姿で出荷（10kg/箱）

（3）農福連携による調製・出荷作業の省力化

収穫した青ねぎの一部は、J A 富山市管内の福祉事業所に選別・調製作業を委託し、出荷されています。令和7年からは、新たに1つの事業所が加わり、地域内での連携がさらに強化されています。青ねぎ栽培の取り組みが地域全体で支え合いながら進められ、持続可能な地域社会の実現に向けた活動にも繋がっています。

(4) 生産者へのきめ細かいサポート体制

関係機関と連携し、月に2回、生育巡回を行って病害虫の発生状況などを確認し、生産者へ栽培指導を行っています。また、栽培開始前には栽培研修会を開催するほか、青ねぎ部会のグループLINEを活用し、病害虫防除などの管理情報発信をリアルタイムに行うことで、品質維持・向上を図っています。

3 今後の取組み

農林振興センターでは、JA富山市をはじめ、関係機関と連携し、省力化体系の確立に向けた実証試験を行うなど、引き続き栽培支援を行います。また、青ねぎは移植時期をずらすことで、水稻の農閑期の作業として計画的に栽培することが可能な品目です(表)。今後は、主穀作経営体への導入推進を図り、更なる産地の規模拡大に取り組んでいきたいと考えています。

表 青ねぎ栽培体系例

品種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
緑秀 (細ねぎ)	●		■	■	■		■	■
鴨頭 (太ねぎ)			●		■		■	

●: 定植、■: 収穫

(担い手支援課 園芸振興班)

おいしい山田りんごと地域の活性化 ～新規就農者紹介⑤～ 藤田 学さん(富山市)

富山市山田の藤田 学(40歳)さんは、神奈川県在住時の結婚を契機として、自然の多い地域で生活したいとの思いから地域おこし協力隊に応募、平成26年から29年までの3年間、同地域の農作業や地域活動支援等に従事されました。こうした中、りんごの管理作業を通じて農業への関心が高まり、当時の山田村りんご生産組合が運営していたりんご園の継承を希望し、地域おこし協力隊の任期終了後も定住し、りんご園で管理作業を学ばれました。



写真 藤田 学さん

令和2年4月には、同農園の継承者として認定新規就農者の認定を受けて農業経営を開始され、令和7年5月からは、富山市の認定農業者として活躍しています。

現在は約1haの園地で250本のりんご樹を管理、主力品種の「ふじ」や「秋映」など計9品種を栽培しています。

りんご園では、お客様への直接販売を主体としながら、NPO法人「山田りんご体験農園」の代表者として、りんごのもぎ取り観光農園を運営しています。今後も「おいしい山田りんご」の生産を探究し続けたいとの思いとともに、農園だけでなく山田地域の活性化に繋がる取組みに貢献していければと考えています。藤田さんの今後の益々のご活躍が期待されます。

(担い手支援課 経営支援班、園芸振興班)

大区画ほ場での高収益作物栽培実証について

1 大区画ほ場での高収益作物栽培について

富山市水橋地区では、ほ場が小区画で老朽化した水路が多く、営農条件が悪かったため、国営農地再編整備事業「水橋地区」や県営農地整備事業において、大区画による効率化、暗きょ設置によるほ場の汎用化が約800haにわたり進められています。

整備されたほ場では、園芸作物などの高収益作物を導入することが目標となっており、省力化・軽労化が図れるスマート農機などを活用した機械化一貫体系の導入がポイントとなります。

そこで、令和6年度から、加工用トマト、加工用かんしょについて、機械化一貫体系栽培技術の実証を行っており、今回は、その実証結果について紹介します。

2 加工用トマト、加工用かんしょの機械化一貫体系栽培技術について

(1) 排水対策

従来の排水対策（額縁排水溝＋弾丸暗渠）に加え、レーザーレベラーによる傾斜施工（写真1）を実施し、ほ場面傾斜化（図1）による表面排水の促進を図りました。

その結果、作物の栽培期間中、ほ場内に停滞水は見られず、排水性は良好でした。



写真1 レーザーレベラーによる傾斜施工の様子

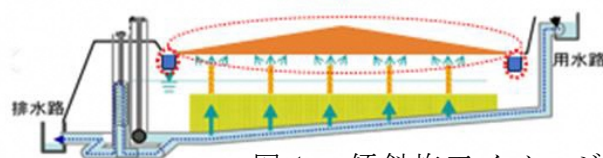


図1 傾斜施工イメージ

(2) うね立てマルチ同時施肥、定植、収穫作業

うね立てマルチ同時施肥作業では、トラクタの直進アシスト機能を使用して実施したところ（写真2）、まっすぐなうねが施工されました（写真3）。

定植、収穫作業についても機械で実施され（写真4、5）、10a当たりの作業時間は、加工用トマトで51.2時間（慣行143時間）、加工用かんしょで37.2時間（慣行120時間）と大幅な省力化が図れることが分かりました。



写真2 うね立てマルチ同時施肥作業



写真3 ほ場の空撮写真



写真4 加工用トマトの定植作業

(3) 今後の取組みについて

今後は、単収向上に向けた栽培技術の検証、複数品目・作型を組み合わせた周年出荷体系の確立に取組み、更なる収益性の向上を図っていく予定です。



写真5 加工用トマトの収穫作業

（担い手支援課 園芸振興班）

野生鳥獣から地域を守るために侵入防止柵の一齐見回り点検運動

8月1日前後に集落ぐるみで電気柵等の侵入防止柵を点検しましょう

令和6年、富山農林振興センター管内のイノシシの被害は県内でも多く発生しました。侵入防止柵の適切な設置と管理により、野生鳥獣による被害を未然に防止しましょう。

1 電気柵の点検（7つのポイント）

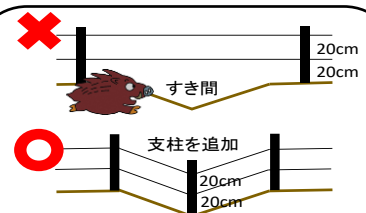
- ① 電圧が 4,000～8,000V で通電しているか
低い場合は電源装置を点検、また途中で漏電していないか電線を確認

電圧が低いと
有効な電撃が
発生しません

これくらい
平気さ！



- ② 支柱が地面にしっかり設置されているか
傾いていないか、破損はないか確認

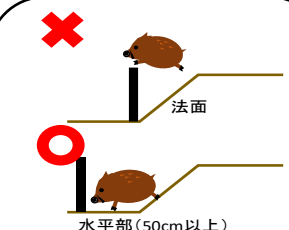


- ③ 2本の電線の高さが地面から 20cm・40cm で
張られているか
実際に害獣が入り込めるすき間がないか

すき間がある場合は支柱を
増やし電線の間隔を修正

- ④ 簡易ゲートや防草シートが破損していないか

- ⑤ 害獣侵入側に土の水平部が 50cm 以上 確保されているか
害獣が柵を視認せず、飛び込むような位置に柵を設置
していないか



害獣の目線から柵が
見えるよう平坦な場
所に設置

- ⑥ 電線が支柱の外側(害獣侵入側)に張られているか※
ガイシやクリップの向きが外側になっているか確認
電線が外側に張られていないと、イノシシなどが電線に
接触せずに、支柱を押し倒して侵入することがあります
※メーカーにより内側に電線を張る場合もあります

- ⑦ 柵の設置期間中は 24 時間連続通電 となっているか
夜間のみの通電では、イノシシなどが昼間に接触して
大丈夫だと判断した場合、夜間に強行突破することが
あります



当センターの HP に
柵の設置・点検等の
動画を公開しています
(You Tube)

2 恒久柵(金網柵・ワイヤーメッシュ柵等)の点検

破損や倒壊がないか、裾部に穴を掘られ害獣が侵入した跡がないか、また、適切な除草により柵やその周辺がきれいに管理されているか点検してください。

破損箇所は修復、裾部の穴は埋戻すなど、対応はすぐに行いましょう。

職場における熱中症対策が義務化～農業の現場でも！～

熱中症の重篤化を防止するため、労働安全衛生規則が改正され、令和7年6月1日から施行されました。この改正により、労働者を雇用するすべての事業者に対して、労働者への熱中症対策が義務付けられました。

規制対象となる事業者には、労働者を雇用する農業者や農業法人も含まれます。
対象となるのは、

暑さ指数 WBGT（湿球黒球温度）28度以上または気温31度以上の環境下で
連続1時間以上または1日4時間を超えて行われることが見込まれる作業

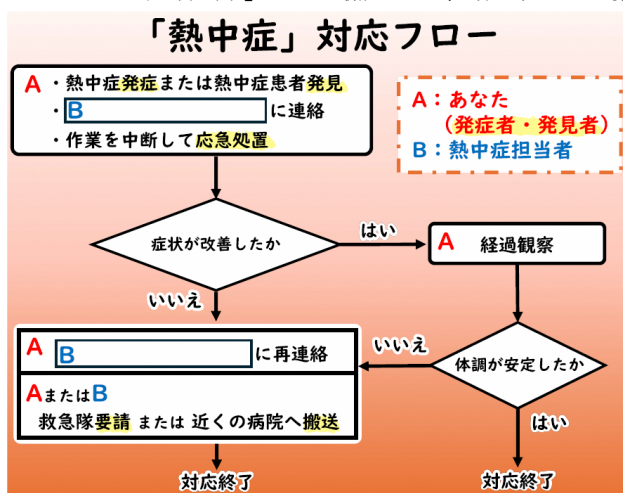
基本的な考え方は、見つける ▶ 判断する ▶ 対処する です。

現場における対応は、次の1、2の体制整備、手順作成、関係者への周知となります。

- 1** 「熱中症の自覚症状がある作業中者」や
「熱中症のおそれがある作業中者を見つけた者」が
その旨を報告するための体制整備及び
関係作業中者への周知。

- 2** 熱中症のおそれがある労働者を把握した場合に迅速かつ的確な判断が可能となるよう、
- ① 事業場における緊急連絡網、緊急搬送先の連絡先及び所在地等
 - ② 作業離脱、身体冷却、医療機関への搬送等熱中症による重篤化を防止するために必要な措置の実施手順の作成及び関係作業中者への周知

各事業者での具体的な対応として【「熱中症」対応フロー】や【熱中症のおそれがある時の連絡体制】を整備して、熱中症に備えましょう。



熱中症のおそれがある時の連絡体制

① 熱中症担当者	② 救急・近隣病院
担当者: TEL: ・上記連絡先に連絡がつかない時は 応急処置や救急隊要請を優先し、 事後に連絡すること。	救急隊要請 119番! 近くの病院: 住所: TEL:

仕事が終わった後でも、体調が悪化したと感じたら、すぐに救急隊を呼んでください！
 （熱中症は回復後に症状が悪化するケースがあります！）

（担い手支援課 経営支援班）

「富山あぐりマッチボックス」で人手不足を解消しませんか？

「富山あぐりマッチボックス」は、1日数短時間雇用をきっかけに、農業を担う人材確保を目的とした県公式農業専門求人サイトです。ぜひ、ご活用ください。

・サイト URL : <https://matchbox.jp/toyama/toyama-agri>

事業者向け
アカウント
開設フォーム
はこちら ➡

